

【映像】

愛知芸術文化センターオリジナル映像作品第19弾

選定作家：

柴田 剛（しばた・ごう／1975年神奈川県生まれ）

大阪芸術大学の卒業制作として、長編第一作『NN-891102』を監督。原爆をモチーフとした、16mm フィルムによる長編という本作は、学生の映画という枠組みを大きく越えたスケールを持つ作品として、注目される。「ロッテルダム国際映画祭」（オランダ）、「Sonar2000」（スペイン）他、各国の映画祭やフェスティバルに出品。その後、東京・大阪で劇場公開も実現させる。

2002年、パンク・ライブ・ドキュメント『ALL CRUSTIES SPENDING LOUD NIGHT NOISE 2002』を制作。

西宮在住の重度身体障がい者・住田雅清氏を主演に2000年から制作を開始した長編第二作『おそいひと』を、2004年に完成。身体障がい者が連続殺人を犯すという衝撃的な題材であるが、決して興味本位にはならず、監督は身体障がい者と健常者に対し常に同じ視線を注いでいて、画面からは住田氏への敬意が感じられ、氏のユニークな個性と人間的な魅力が表れている。作品は、人間が根源的に持つ屈折した、複雑な心理的内面にも到達していて、高い評価を得るとともに、大きな話題を呼んだ。「第5回東京フィルメックス」コンペティション部門への出品を皮切りに、各国映画祭（15カ国、18映画祭）を巡回。本作により「ハワイ国際映画祭2005」Dream Digital Awardを受賞している。

2008年、長編第三作『青空ポンチ』を監督。また、『おそいひと』国内上映展開の傍ら、ライブ&プロモーション・ビデオ集「バミューダ★バガボンドDVD」を制作。

自作の上映活動、様々なイベントへの参加を経て、創作の活動拠点を京都に移し、長編第四作となる『堀川中立売』を完成。本作は「第10回東京フィルメックス」コンペティション部門に選出され、2009年11月末にワールド・プレミア上映を果たした。さらに2010年の国内劇場公開および海外映画祭への巡回が予定されている。

映像への実験的な姿勢と、ノイズ的なサウンドへの関心というスタンスに立ち、劇映画から音楽ドキュメンタリー、プロモーション・ビデオまでを手掛ける、幅広い活動を行う若手監督として、現在、注目される存在である。

作家選定委員

天 野 一 夫（美術・映像研究家、豊田市美術館チーフキュレーター）

北小路 隆 志（映画評論家、東京国立近代美術館フィルムセンター客員研究員、
京都造形芸術大学映像学科准教授）

西 村 智 弘（映像評論家、東京造形大学非常勤講師）

仁 藤 由 美 (映画研究家、名古屋シネマテーク・スタッフ)